



1. 政府渉外
2. 広報・宣伝／  
メディア・IR
3. 社会貢献
4. 技術渉外（環境）
5. 技術渉外（安全）
- 6.マイアミ事務所
7. 調査・企画
8. 人事・経理・総務

### 1. 政府渉外

(1) 10/17、TMA 所在ビルで故マツイ下院議員（民-カリフォルニア）の遺志を引き継ぐ「ロバート・マツイ財団」のファンドレイジングセッションが開催された。同団体は議会スタッフ等の公職を目指す若者に奨学金を提供する財団であり、あるロビイストの仲介で TMA も支援を決め、今回のイベントの場所も提供。クリントン前大統領がキーノートスピーカーとして出席し、故マツイ議員の末亡人で同議員の地盤を継承したドリス・マツイ下院議員とともに、TMA オフィスでの VIP レセプションにも顔を出した。レセプションには、ペロシ下院議長、レビン下院議員他の議員も出席。今回のイベントへの協力も含めた同団体への支援は民主党との関係強化を意図したもの。

[方針機能：メッセージ発信機能； KPI：議員関連イベント； 文責：シュナイダー、クィスト]



クリントン元大統領と TMA 早川社長

(2) 議会でのエネルギー法案(CAFE 条項)の両院協議会での調整に向けて、TMA と他の AAM メンバーは業界として受容れられる内容の法案の年内成立に向けて働きかけを継続。下院を中心に両院協議会開催に動いていたが、上院の反対派により阻止され、両院スタッフ間の非公式協議による法案のすり合わせに止まっており、当初目標とされたサンクスギビング前の法案成立は困難な情勢。TMA では AAM としてのロビイストに加え、トヨタ単独でイノウエ上院商業委員長、ロット上院議員に面会し、トヨタのポジションを説明。

[方針機能：リスク管理； KPI：不公平燃費規制回避；文責：イング、クィスト]



フリードマン氏

(3) 10 月中旬、NRDC(Natural Resources Defense Council)を始めとする 9 つの環境団体がトヨタの(ビッグ 3 と歩調を合わせた AAM としての)CAFE ロビイストを批判するキャンペーンを開始。これを受けた一般顧客からのコンタクトには TMS が一元的に対応する体制を構築。また、トヨタシンパであった NYT 紙のコラムニスト、トーマス・フリードマン氏も「トヨタよ、お前もか？」と題する批判記事を寄稿。TMA クーパー-GVP がフリードマン氏と懇談機会を持ち、トヨタの業界一本化を目指す CAFE 渉外姿勢、技術・商品開発との関係等を説明。同氏との良好でオープンな関係維持に向けて意味のある懇談であった。

[方針機能：メッセージ発信機能； KPI：イメージ向上；文責：ヴァス、クィスト]

10月 15-17 日 = TEMA 秋季  
サプライヤーイベント(フロリダ州オーランド)

10月 17 日 = マツイ財団レセプション

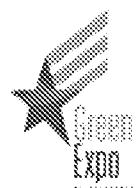
10月 18 日 = フリードマン氏との面会

10月 23-25 日 = 州政府渉外年次会議

10月 25 日 = 議会でのグリーン EXPO

(4) 州政府渉外会議をサンアントニオで実施し、TMA、TMS、TEMA、TTC、SET、GST の代表50人と契約ロビイストが参加。連邦議会の動き、環境規制、通信、サービス情報、サプライヤー関係、法務案件について情報・意見交換。一行はTMMTXを見学し、タンドラとシルベラード、F150との比較検討を実施。

[方針機能：メッセージ発信機能； KPI：グラスルーツ；文責：ヴァス、クィスト]



(5) ペロシ下院議長主催で開催された「グリーン・トランスポーテーションエキスポ」に、TMA が FCHV とプリウスを展示し、ハイブリッドがトヨタのコア技術であることを訴求。多くのプリウスオーナーを含む数百人の議員スタッフが出席したが、トヨタの CAFE ロビイスト批判(上記 3)は聞かれなかった。インスラー下院議員(民-ワシントン)がプリウスへの誇りと満足度を表明した上で、クリーンで持続可能なエネルギーへの国のコミットを求める彼の新刊本「Apollo's Fire」の中で、トヨタを取り上げていることを説明。

[方針機能：メッセージ発信機能； KPI：イメージ向上；文責：ヴァス、クィスト]



1. 政府渉外
2. 広報・宣伝／メディア・IR
3. 社会貢献
4. 技術渉外（環境）
5. 技術渉外（安全）
6. マイアミ事務所
7. 調査・企画
8. 人事・経理・総務

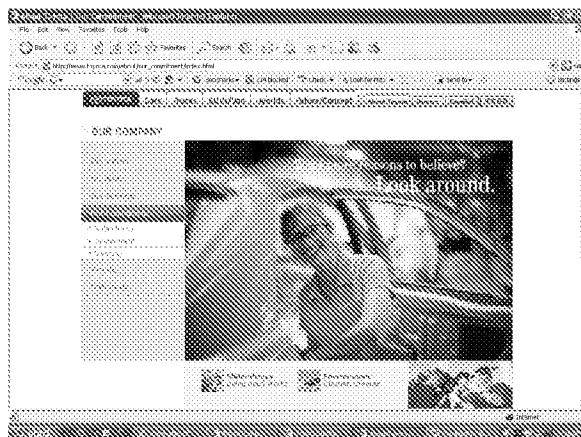
## 2. 広報・宣伝／メディア・IR

### (1) メディア・IR

- IR グループは東京モーターショーに合わせ、TMCの経理部の担当グループと打ち合わせを持ち、最近実施された北米の投資家へのプレゼンテーションの 結果を報告した。

### (2) Corporate Communications

- 新企業広告キャンペーン“WHY NOT”の最終説明／報告を実施。9月に報告を実施したTMA, TMS, TMCの関連役員に加え、10月はTMCグローバル渉外広報企画部、TEMA役員（須藤社長、森田財務役、タンゲイ副社長、ブラウンGVP）、及び北米生産事業体PR担当者への説明を実施。新企業広告キャンペーンはトヨタの経済、環境、社会（昨年までは経済貢献中心）への貢献を謳っており、11月5日のNBC Nightly News でのキャンペーン紹介を皮切りにTVコマーシャル及び有力紙誌で展開される。また、同キャンペーンはトヨタの企業市民としての取り組みをより詳しく知りたい人をWEB上のマイクロサイトに誘導するリンクも織り込んでいる。
- トヨタ米国WEBサイトの「企業情報」セクションのデザインと内容をリニューアル。セクション名を「Our Company」とし、ニュースリリース、トヨタの米国事業体概要、環境問題への取り組み、社会貢献活動、ダイバシティ、IRに関する情報を提供。同サイトは Toyota.com 経由でのアクセスと Toyota.com/about.への直接アクセスが可能。





- 1. 政府渉外
- 2. 広報・宣伝／  
メディア・IR
- 3. 社会貢献
- 4. 技術渉外（環境）
- 5. 技術渉外（安全）
- 6. マイアミ事務所
- 7. 調査・企画
- 8. 人事・経理・総務

#### 当グループ主な活動

#### 3. 社会貢献

- 米国トヨタ財団が助成した 3 団体による助成認知イベントが開催された。
  - "Biotech Partners' Science for Life" の高校生向け科学教育プログラム助成 (200,000 ドル) に対してトレーシー・アンダーウッド理事がサンフランシスコにて感謝の意を示した。
  - WDC では TMA アナ・シュナイダーVP が会社を代表して「Challenger Center for Space and Science Education」より「Challenger Seven Award」(表彰) を受賞。米国トヨタ財団は 2005 年に同センターに対し、150,000 ドルの助成を実施。
  - 10 月 11 日には TMA ピネダ GVP が Mills College に \$275,562 の助成金チェック引渡すセレモニーを実施。助成金は 6-8 年生向けの教育プログラムである「Your Horizons in Math & Science」の拡充に使われる。
- 11 月 6 日に予定されている社会貢献寄付発表の方法／演出を引き続き検討(トヨタ米国 50 周年記念イベントの一環として発表)。発表内容は国立公園への 500 万ドル寄付、環境 NGO 他への車両 50 台寄贈、米国トヨタ財団基金積み増し(昨年、4200 万ドルから 1 億ドルに積み増し)。
- 9 月 29 日(土)に TMA の従業員及びその家族／友人がナショナル・パブリック・ランズデー(ボランティア)に参加。アップマーマンハッタンの Swindler's Cove Park にて造園作業に汗を流した。本活動は "the National Environmental Education and Training Foundation"とのパートナー関係のもとで実施されており、全米のトヨタ従業員を巻き込んだ同活動への支援は今年で 9 年目を迎えた。





1. 政府渉外
2. 広報・宣伝／メディア・IR
3. 社会貢献
4. 技術渉外（環境）
5. 技術渉外（安全）
6. マイアミ事務所
7. 調査・企画
8. 人事・経理・総務

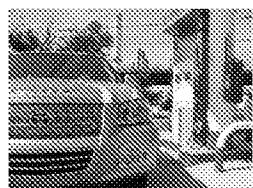
#### 当グループ主な活動

- 10/1-2 = GCEP シンポジウム  
 10/3 = ディーゼル技術フォーラムとのミーティング  
 10/5 = FedEx とのミーティング  
 10/10 = NHTSA Nason 長官とのCAFEミーティング  
 10/9 = アイオワ州立大とのセルロースのミーティング  
 10/10 = TTC 打ち合わせ  
 10/11 = US Fuel Cell Councilミーティング  
 10/15 = NYTimes とのCAFEに関するミーティング  
 10/16 = Hart World Fuels Conferenceでのプレゼン  
 10/17 = ExxonMobil-Toyota W/G1ミーティング  
 10/19 = 上院FC/H2ミーティング  
 10/24 = Apollo との触媒回収に関するミーティング  
 10/25 = CAFE/GHG 規制に関するAIAM-GOVETミーティング

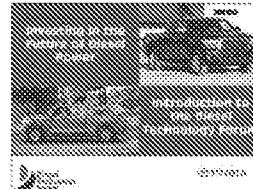
#### 4. 技術法規渉外－環境

(1) 燃費と温暖化ガス：大統領の20-イン-10方針と議会が検討しているエリザベス法案を受けて、EPAとNHTSAの動きが加速している。燃費規制強化の影響について説明する場を持った。法制化の観点でNHTSA長官のゼイツ氏を訪問し、我々のポジションを説明。続けて11月6日にEPAを訪問予定。TMAとして大統領府のシニアメンバーとも会う予定。渉外広報という面からNYタイムズ紙のトム・フリードマン記者との面談をサポート。彼はトヨタの燃費規制の姿勢を強く攻撃した記事を書いた本人。同じようにエリザベス法案に関連する議会関係者への面談もサポート中。[方針：アンテナ機能／リスク管理／持続性；文責：ストリッカー]

(2) 燃料電池車の水素インフラ：トヨタはじめ各社は、ZEV規制により、「09から大量のFC車を加州に導入することが要求されている。しかし、我々の分析によれば、2010には燃料インフラ不足のため、水素の供給不足が発生する。この懸念を、上院の水素/FCコータス及び米国FC Councilに訴えた。燃料インフラの建設が進まないと、ユーザーの不満を招き、FC車を拒絶するようになる可能性がある。連邦及び地方政府が燃料会社と協力して、燃料インフラ建設を進めることをリコメンド。これが実現しないと、自動車各社は自ら燃料インフラを建設することが必要になり、巨額の資金が必要となると予測。[方針：アンテナ機能／持続性；文責：ウイマー]

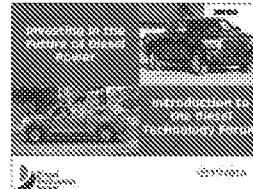


(3) ディーゼル技術フォーラム(DTF)：DTF(ディーゼル技術フォーラム)は、ディーゼルの普及を目指す団体であり、連邦議会、環境NGOへの理解活動で成功を収めてきた。DTFの活動は、90年代に形成された‘ディーゼルは汚い’とのイメージから脱却することから、燃費向上の解決策としてクリーンディーゼルをプロモートすることまで進展。将来、トヨタが米国でディーゼル車市場に参入するための戦略的投資として役立つだろうとの理由で、DTFから参加打診あり。直接に詳細説明を受けた結果、現時点では不参加を決定。理由は、1) DTFは将来の課題の説明なしに、現在のディーゼルを促進している。2) トヨタのハイブリッドメッセージと矛盾する可能性。3) トヨタの参加がなくとも、ディーゼルPRは進む。[方針：アンテナ機能／持続性；文責：ガジール]



(4) カリフォルニア州ZEV規制渉外：CARBスタッフは、フェーズ3でのFCV要求台数(25,000台)は変わらないが、その90%を、新たに定義される“Silver Plus(PHEV、水素内燃機関等)”でカバーすることを含む修正案を作成中。この案では、トヨタは、1年当たり1,400台のPHEVが必要。これはトヨタにとって助かる考えだが、サポートするかどうか、異なる情報が必要。さらに、トラベル条項が延長されないため、全ZEV規制適用州に対して、この10倍ものPHEV導入が必要となる。今後も、TMCと協力して北米ZEVチーム(\*:TEMA/TMS/TMA)は、CARBとの交渉を続ける。[方針：アンテナ機能／リスク管理／持続性；文責：安倍]

(5) 環境戦略：TRAは北米環境委員会(NAEC:North America Environmental Committee)の事務局を勤めてきた。現在のNAECのアウトプットは、環境報告書と環境アクションプランであるが、環境戦略を作る場としたいと考えている。現状組織での問題点の解析を元に、組織と運営方法のたたき台を作り、TMAT及びTC関係者と議論。今後、TEMA、TMSとも議論の予定。[方針：アンテナ機能／リスク管理／持続性／メッセージ；文責：安田]



1. 政府渉外
2. 広報・宣伝／メディア・IR
3. 社会貢献
4. 技術渉外（環境）
- 5. 技術渉外（安全）**
6. マイアミ事務所
7. 調査・企画
8. 人事・経理・総務

**グループの主な活動**

- 10月1日-IS250 NCAP 試験、アライアンスWG打合せ  
 10月2日-VIIIC WG  
 10月3日-トヨタxD IHS 試験  
 214 WG  
 10月4日-カジ305 試験、トヨタ LINCAP 試験、TMC/TMA 会議、トヨタxD 前突試験  
 10月5日-CChips WG、MADD CEO 打合せ  
 10月9日-TMC/TMA フィールド会議、IT 打合せ、CChips 研究電話会議  
 10月10日-トヨタxD 前突試験、214 WG、トヨタ NCAP 試験  
 10月11日-トヨタ LINCAP 試験、SPC 会議  
 10月12日-CIRN 打合せ、LATCH WG  
 10月15日-トヨタxD 側突試験、ESC WG  
 10月16日-201U 試験、AAAM 会議  
 10月17日-FJ 201U 試験、IHS 試験、TMC 会議、214 WG UVA 打合せ  
 10月22日-NHTSA mtg、GM CAT mtg、ESC WG mtg  
 10月23日-AAM 会議、NCAP 打合せ  
 10月24日-トヨタ耐久技術WG 打合せ  
 10月25日-NHTSA AF05 密接問題打合せ  
 10月29-1日-日本出張(CT、HK CM) STAPP 会議  
 10月30日-ACAT 打合せ、VIIIC 打合せ

**5. 技術渉外（安全）****(1) 法規**

- **FMVSS 208: アベンディクスAのNPRM**- NHTSA は、208 法規のコンプライアンス試験で使用するチャイルドシートのリスト改訂法規案(NPRM)を発行した。
- **FMVSS 214 側突**- アライアンスの側突 WG はペティション準備のために毎週会合を重ねている。トヨタはアライアンス統一コメントとトヨタ単独コメントの両方を提出予定。
- **FMVSS 305 漏電防止と感電保護**- ハイブリッドカーや電気自動車など大型バッテリーを搭載する車両に対して、電気的保護を目的とする法規案が発行された。これは、FMVSS 301(80km/h 後突)などで適用される。
- **FMVSS 101, 指示器、警告等など**- NHTSA はアライアンスのペティションに応えて、ホーンマークへの色付けを免除することを回答。
- **FMVSS 106 ブレーキホース**- ファイナルルールは技術的な文章の修正が入り発行された。NPRM の方は内容に対する修正コメントを求めていた。
- **衝突回避 NCAP (CANCAP)**- NHTSA は、前方衝突警報(FCW)、レーン逸脱警報(LDW)、横滑り防止装置(ESC)の3点を衝突回避NCAPに採用する方向で検討中。TMC と TMA はその中身について意見具申を行なった。

[方針：アンテナ機能／持続性／リスク管理]

[文責：ティント、加藤、ロー、マーレン、金谷、鈴木、ロバートソン]

**(2) コンプライアンス/アセスメント/リコール**

- **'07 MY タコマ サージ問題** - NHTSA はサージを訴えるユーザからのクレームを幾つかか受け取ったため、TMA に対してタコマの FMVSS 124 コンプライアンス情報要求を求めている。

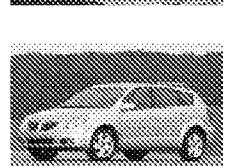


今月後半になって、下院議員のブラックバーン氏（共和党、テネシー州）がエネルギー商務委員会のデインゲル議長に対して、当局にこの問題の調査を求める手紙を出したという情報を得た。TMA は議員会館に説明に出向く準備を始め、ブラックバーン事務所への手紙を草稿中。

- **ES350/カムリのフロアマット リコール** - 「フックに掛けていない全天候フロアマットが走行中にアクセルペダルと干渉して、思わぬ加速を感じさせかねない」という理由で TMA はオプション部品である全天候マットのリコールを届け出た。これは「車両」ではなく「装備品」のリコールとして当局と合意したことがポイント。



- **NHTSA がポンティアック バイブの調査を開始** - 前席窓ガラスが運転中に突然割れたというクレームを元に、NHTSA が NUMMI で生産している 03-04MY ポンティアック バイブの調査を開始した。GM と TMC, TMA が共同で調査に協力中。



[方針：アンテナ機能／リスク管理]

[文責：ティント、ロー、サンツッチ]

**(3) その他**

- **アルコールインターロック: 技術スペックWG議論** - WG の議長として TMA はブルーリボンパネル議長、GM などと WG の方針やスケジュールについて議論した。進め方として、業界全てが満足する「ゴールドスタンダード」を設定することを全員が賛成した。その後、TMC と今後の進め方について打合せた結果、WG 毎に TMC の担当者を付けて支援してくれるという合意を得た。

[方針：アンテナ機能] [文責：ティント、加藤、マーレン]



1. 政府渉外
2. 広報・宣伝／  
メディア・IR
3. 社会貢献
4. 技術渉外（環境）
5. 技術渉外（安全）
6. マイアミ事務所
7. 調査・企画
8. 人事・経理・総務

当グループ主な活動エリアマーケティング

- 10/2.=広報リエン会議[Webex]
- 10/8 & 22=ACチーム電話会議
- 10/9=米富部TV会議
- 10/16 & 19=RCC電話会議
- 10/21-31=来年度業務委託  
関連会議他 [日本]

カスタマーサービス

- 10/2-5=PRO 3モンレアルディセーブルインシジン教育受講
- 10/7-9=PRO TWC 打合せ
- 10/8-12=TDB フレークキャリバーナイス修理支援
- 10/16-18=PRO スキルGP一般競技出席
- 10/18-22=TDB スキルコンテスト一般競技出席
- 10/22-23=ハラグアイ サービスオペレーション確認
- サービスハーツ＆アクセサリー
- 10/22-23=C&A 開発部との次期カローラ用品装着確認
- 10/24-25=Developing DB Meeting 出席（日本）

## 6. マイアミ事務所：ラテンアメリカ エリアマーケティング &amp; カスタマー・サービス

## (1) エリアマーケティング

中南米地域マーケティングの重要課題の1つは、次期カローラの効果的な発売準備となっている。現地販売代理店主導で運営されているエリア・コーディネーター(AC)チーム、地域コミュニケーションコミッティ(RCC)、トレーニングコミッティなどのタスクフォースは、日々活発に活動している。当事務所ではこうした地域活動効果の最大化に向け、諸企画立案、また販売代理店間及び



TMCとのコミュニケーションに於けるコーディネーションを実施中。現在 RCC では、当事務所と協力し地域広告素材の制作に注力しており、3度に亘るローカル広告代理店とのクリエイティブコンペを踏まえ、この程ようやく最終案の方向性を固めた。魅力溢れる新型カローラの車両特性や心理的メリットを訴求し、お客様を魅了すべく、現地販売代理店を最大限に巻込みこの広告素材を完成させていく予定である。

(文責: 杉田)

## (2) カスタマーサービス（文責: 古川/岩田）

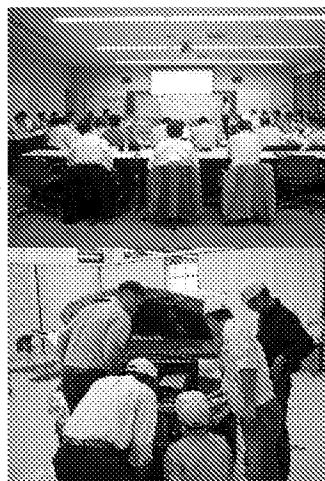
TDB 製カローラ TRW 製フロントブレーキキャリパーからコトコト異音（ブラジル）  
石畳路を40Km/h程度で走行中に、BRK キャリパーから異音が発生。原因はキャリパーが固定されているピンと、取付け穴のすき間が大きいため。TDB-CQD によって F/Fix(キャリパーを両面テープでパッドに固定)が提供されたが、対策効果が低い（2000km 以下で再発有り）だけでなく、パッド交換時にお客様負担でテープを張り替える必要がある。当該カローラがモデル末期のため、恒久対策は実施しないとの案内が同 CQD から出されたため、TDB-CSD が当方に対して修理支援を要請。現認の結果から、F/Fix は原因部品のマウント交換で対応する事に決定。当該不具合の無い欧州仕様部品を F/Fix に活用すべく、代理店と共同で現地現物テストを実施中。

市内の幹線道路以外はすべてペルシャン路	異音センサー取付け状態	左: 欧州TRW製 右: ブラジルTRW製

## (3) サービスパート &amp; アクセサリー（文責: 神谷）

Developing DB Meeting 出席（日本）

10月24日-25日に日進にてC&A開発部主催の下、TMAP/ALJ/TSAM/TMCI/TCI/MST/TMAが出席し、用品開発の企画段階～オンラインローンチに向けての標準スケジュールの合意及びグローバル開発・調達対応方法について討議を実施。これでやっと標準スケジュール及び役割が決まり、今後のスムーズな開発進行が期待できる。  
また、中米・カリブ向け日本出荷次期カローラに対するMST用品の装着評価を日進にて実車で実施。  
トランクリーナーを除き10品目装着可能であることを確認。当活動に協力いただいたC&A開発部の方々に感謝。当結果を受け、大至急で中南米各代理店に装着結果を連絡、オーダー受領に繋げたい。





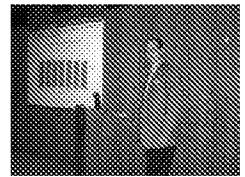
1. 政府渉外
2. 広報・宣伝／  
メディア・IR
3. 社会貢献
4. 技術渉外（環境）
5. 技術渉外（安全）
- 6.マイアミ事務所
7. 調査・企画
8. 人事・経理・総務

## 7. 調査・企画

### (1) イメージ調査

- イメージ調査グループは今月、TMSにおいてイメージ調査のプレゼンテーションを実施した。このプレゼンでは、トヨタの企業イメージが大変高いことに加え、トヨタの強み・弱みのそれぞれを紹介。例えばトヨタは製品とサービス、エモーショナルさや個性と言った点において特に強いイメージがあるものの、就業環境や社会的責任という分野においてのイメージは弱い。このプレゼンにはTMSの広報・マーケティング・経営企画・HRなどの各部署から50名を越える参加があり、またプレゼン実施後にも多数の質問が寄せられ、TMSの関心の高さが伺えた。
- 同様にTEMAの渉外会議やTMAのオフサイト・ミーティングにおいても、一般大衆からのトヨタの認知に関する最新の調査結果を報告した。アメリカにおけるトヨタのイメージは大変良いものの、当グループでは引き続き、競合他社や他産業の優良企業との比較調査を実施し、トヨタの相対的な弱点を探っていく。

[方針:アンテナ機能; KPI:イメージ調査機能の確立; 文責: ハイランド、ポドリキ、ダーダリアン]



### (2) 企画

- 10月16日、スターク GVP のグループ（広報／メディア& IR、調査、企画）のオフサイト会議をニューヨーク市内のニュースウイーク本社ビルにて実施

目的は、来年度の方針作成に向けたグループ間、グループ内のコミュニケーション向上とチームワーク作りで、「今後TMAは何をすればより革新的な会社になれるか」、「どうすれば北米各社との連携を強化できるか」「TMAのビジョンをどのようにしたら達成できるか」について議論を行った。

[方針:持続性; KPI:標準化プロセスの作成; 文責:ルイス、ジョージ]



### (3) ラテンアメリカ調査、メキシコ関連およびバイオ燃料関連

- TMAマイアミチームは11月に予定されているTMC BRエナジー室への米国バイオ燃料に関するプレゼンをTEMA（アナーバー）のマリー・バレンタインと共に準備。プレゼンの中では、グローバルの視点から、トヨタのディーゼル E/Gに對して20%のバイオディーゼル混合レベルを推奨。尚、TEMAが活用したTMAバイオディーゼル指数は、Soya Tech社と共に考案されたもので、FAME(Fatty Acid Methyl Ester:脂肪酸メチル)ベースのバイオ燃料の米国での供給可能量を予測したもの。

[方針:アンテナ機能; KPI:事業体横断コーディネーション; 文責: ウォーレン、コウサカ]



### (4) 戰略調査

- 戰略調査チームでは、2010年までの経済・市場見通しの調査報告を発行。今後穩やかな回復基調を見込んでいる。本レポートはTMC調査部、TMA早川社長、および北米の各事業体へプレゼンを実施した。TEMAオフサイト・ミーティングでは、上記「経済・市場見通し」と「UAWの労働協約」について、当グループより2種類のプレゼンテーションを実施。労働協約の改定によって、GMはより競争力を盛り返してくるだろう。TEMAの調達部に對しては、鉄鋼価格のミクロ/マクロの分析結果と具体的な調達戦略について報告した。

[方針:アンテナ機能; KPI:顧客満足の向上・顧客の増大; 文責: デバロスコンティ、ニクプール、モレノ]



1. 政府渉外
2. 広報・宣伝／  
メディア・IR
3. 社会貢献
4. 技術渉外（環境）
5. 技術渉外（安全）
6. マイアミ事務所
7. 調査・企画
8. 人事・経理・総務

### 当グループ主な活動

10月9日 TEMA訪問

10月17、18日  
福利厚生社内説明会

### 8. 人事・経理・総務

#### 1. 人事

- ・10月9日、人事制度改善のベンチマークのためTEMA訪問を実施した。
- ・TMSの福利厚生制度との統合を継続しており、10月17、18日に、2008年1月からTMSのプランに移行予定の401K、退職後医療保険の説明と合わせて、既に導入済の年金など、福利厚生に関する社内説明会を実施

#### 2. 総務

- ・IT関係サービスのTMSとの統合も実施中で、音声会議システム、コーリング・カード・サービス等の統合を実施した。現在はブラックベリーサービスの統合を検討中

#### 3. 経理

前半期(07年4-9月)予算の消費状況

- ・前半期の消費実績は、年度予算の36%で、予算を\$5.5M下回った。(下記グラフ参照)
- これの主な理由は、予算で想定していた支払い時期に対して、実際の支払いの時期が遅れたことによるもので、後半期には、遅れていた寄付の支払い等により、予算との差額は縮小すること見込み

今後、主な費用について、予算の節約が可能かどうか、消費状況を注視していく予定

